

佐久市立中央図書館建替再整備進捗状況について

(2) 佐久市立中央図書館建替再整備ワークショップ

(実施日：①R4.9.25 (日) ②R4.10.16 (日) ③R4.11.27 (日) ④R4.12.18 (日))

【ワークショップの主な意見】

1 個別施設計画について (R4年3月策定)

(1) 佐久市公共施設等総合管理計画に基づく図書館 個別施設計画 【抜粋】

(「佐久市公共施設等総合管理計画」を着実に推進するための行動計画としての位置付け。)

ア 検討結果

施設名	基本方針	具体的な対策内容	延床面積 (㎡)	
			現状値	見込値
中央図書館 築42年 RC造	建替再整備	躯体の劣化が顕著なことから、法定耐用年数47年を経過する令和8年度までを目途に、施設の建替を行う。また、他の施設との複合化も視野に入れ検討する。	1,669.88	1,669.88 + α

2 今後の具体的なスケジュール (案) ※周辺施設の方針が明確でないため、変更予定。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度～
アンケート実施	→					
ワークショップ	→	→				
検討委員会		→	→	→		
基本構想策定		→				
基本計画策定			→	→		
パブコメ・説明会等		→	→	→		
基本設計	※個別施設計画では「令和8年度を目途に建替を行う。」としているが、「基本計画」以降は、建替場所の確定後となる。※検討委員会は原則公開。令和5年度は4回開催予定。					
実施設計						

3 中央図書館建替再整備における具体的な作業

(1) 「佐久市立中央図書館」建替再整備に関する市民アンケート調査

(調査期間：R4.6.1~6.30 市内居住の15歳以上の男女1,000人を対象。有効回収数477人(回収率47.7%))

【市民アンケート調査結果 (主な意見)】

○ 現在の図書館について

- ・「広さ」については、「少し狭い」
- ・「利用状況」については、「過去に数回利用」「年に数回利用」
- ・「滞在時間」については、「30分程度」「1時間程度」
- ・「利用目的」は、「本を借りる」「調べものをする」

※ 公立図書館は高齢者の利用が高い傾向にあるが、中央図書館では30~40代の利用が高い。

○ 充実させてほしいスペース・サービス・図書分野

- ・ゆっくり読書、のんびり休憩できるスペース
- ・図書館資料の充実
- ・インターネット利用による情報サービス
- ・文学・絵本・児童本の充実

○ 図書館にあれば良いもの

- ・飲食の場
- ・郷土・文化・芸術の保存公開の場
- ・市民交流の場

○ その他自由記載
「紙媒体は重要である」「安心、落ち着く空間」「次世代、子どもたちを考えた図書館」
「建替賛成」
「多目的、誰でも使える場」

1 課題について

- ・照明、トイレ等の設備面の老朽化
- ・入口、通路、読書、学習室等の各スペースが狭い
- ・交流の場、展示室、様々なニーズに対応したスペースの不足
- ・図書館からの情報発信、レファレンス機能の充実
- ・ビジネス支援や地域の課題解決支援

※ハード面に対する課題が最も多い

2 機能について

- ・バリアフリー、授乳スペース、多目的トイレ等が必要
- ・会話可能な場所、カフェ、イベントスペース等が必要
- ・学習室、子どもスペース等、全てのスペースの拡大が必要
- ・DVD視聴室、インターネット利用による情報サービスへの対応が必要

※各コーナー、サービスの拡大が求められている

3 複合化について

- ・会議室、トイレ等を共有することにより管理費の削減可能
- ・美術館、文書館、郷土資料館、創造館、飲食、カフェ
- ・商業施設、郵便局、行政機関(住民票、子育て)、本・古本屋、イベントホール、アニメとのコラボ等

※可能性の考えられる様々な意見がだされた

4 まとめ

- ・ゆったりくつろげるスペース
- ・必要な情報を利用者が収集・活用できる場
- ・子どもスペースの充実
- ・図書館のミニ講座や、利用者が学んだことを発表、交流等できる多目的室
- ・美術館や資料館等、文化的な施設との複合化

※居場所、居心地の良さも含め、現代の図書館に必要とされるサービスの充実・拡大が求められている

(3) 佐久市立中央図書館建替再整備検討委員会

ア 委員名簿 (任期：令和5年7月12日から基本計画策定の日)

	氏名	役職・職業等
会長	植松 貞夫	日本図書館協会 理事長 筑波大学名誉教授 (工学博士)
副会長	豊田 高広	フルライトスペース株式会社 特別研究員 (元田原市図書館長)
	森 いづみ	県立長野図書館長 (前信州大学附属図書館副館長)
	森田 秀之	(株)マナビノタネ代表取締役 日本建築学会会員
	柳澤 拓道	ワークテラス佐久 管理運営責任者 (株)MoSAKU代表取締役
	小木田 順子	幻冬舎新書編集長
	朝倉 久美	長野県野沢南高等学校 主査 (学校司書)

イ 協議内容

(ア) 第1回（令和5年1月17日）

- a 建替再整備に向けた取り組みの状況報告（アンケート、ワークショップ）
- b 再整備を進めていく上での基本となる部分である「理念とコンセプト」及び「6本の目指す姿」について、委員に意見・提案を依頼。

【ワークショップの実施結果についての主な意見】

・図書館等の公共施設の従来のイメージを中心に話を進めると、その延長線上でしか物事を考えられなくなるため、市民が自主的に活動する場、活動の拠点となる場、活動が起こる場を中心に進めていくべきである。

【図書館の在り方についての主な意見】

- ・図書館は本の貸出や選書を基盤にもつOSである。しっかりとしたOSをつくりその上に模範的なアプリケーションとして何をするか考え、それを各館へも導入する。
- ・誰かが用意してくれた資料を使う・知るだけではなく、自分たちが新しい未来の佐久市に向かって一緒に作り出すといった観点があるといい。
- ・ワクワクしながらチャレンジしていけるような機能が一本の柱としてあるのがよい。職員自身がどう変わっていきたいのか考えることが重要。
- ・コンセプトの次世代を担う人づくり、活力ある人づくりは重要な部分。情報や資料を活用してエンパワーメントしていくといった観点があればよい。
- ・図書館は、新しい人は来るが繋がりができない、続かないといった課題がある。

(イ) 第2回（令和5年2月27日）

- a 「理念とコンセプト」及び「6本の目指す姿」について、各委員から出された意見・提案について意見交換。

【理念・コンセプトについての主な意見】

- ・自分が生きていくための術を考えるような場所にしていく。
- ・情報や知識は目的を達成するための手段であり図書館は活用する場である。情報、知識についての捉え方を深め、理念の中に目的を表す文言が必要。
- ・居場所がないような人たちのニーズを満たしていく必要がある。図書館のOSをしっかりと作り、市全域をカバーするためにも図書館機能をインストールできるようにした方がいい。
- ・中央図書館ならではのしっかりとした基盤があるという考えのもと、ネットワーク機能を使った全図書館の窓口業務について考えていく必要がある。

【6本の目指す姿についての主な意見】

- ・図書館が一番大事にしなければいけないことは資料提供。利用者のニーズに応え得る図書館であることが大事。建替えと図書館がどうあるべきかについては切り分けられない。
- ・佐久エリアは書店の数が圧倒的に少ない。図書館が書店の機能も担う必要がある。
- ・蔦屋書店は教養書が中心。佐久平の子ども達が本を読みたい気持ちが芽生えた時に、東京の本屋と遜色ない感じでセレクトされた本を見る環境があったらいい。
- ・この土地の強みを活かしながら、市内に窓口となるアクセスポイントを作り、中央図書館の強み（大規模、多様な資料、人的サービス）も活かしていく。そのためには理念とコンセプトをしっかりと表現し、伝える必要がある。
- ・テーマ展示を前面に出している図書館が増えているが、多くの利用者の好奇心が満たされ、知的な刺激を受けるといような場になっている。人生の選択肢みたいなものを提供するような情報に出会えることが必要。
- ・図書館の規模について（15~20万冊）、テーマなどの見出しのつけ方、見せ方等、丁寧にやることが大事。
- ・図書館が自費出版や簡易出版していくような出版、編集機能を持つことはできるのか。
- ・メディア全般について編集して発信していくことに対してニーズがあることは間違いないので、それを積極的にバックアップすることを考える必要がある。
- ・図書館に資料を全部集めるのではなく、情報がある場所を検索できる仕組み作りを図書館の中で作ることが大事。
- ・広報の重要性。図書館のスペースではいつもいろんなことができる。図書館からも出向いて関連書籍やデータベースを紹介するなどの相互作用ができる場所があればいいと思う。

【理念（案）】
「知識・情報を市民の共有財産として未来へつなぐ」

【6本の目指す姿（案）】

- (1) たくさんの情報に出会える場（情報センターとしての機能等）
- (2) 佐久市の歴史・文化に出会える場（郷土資料の充実等）
- (3) 次世代を担う人づくりのできる場（子どもたちへの読書推進等）
- (4) 活力ある人づくりを支援する場（ビジネス支援、地域支援等）
- (5) 人と人が出会える場（イベントスペースや会話可能な場）
- (6) ゆったりくつろげる場（館内環境、ユニバーサルデザイン化等）

4 今後の課題等について

(1) 施設の老朽化等

建築後43年が経過し、躯体や設備などが老朽化しており修繕等の必要な箇所が増加。また、蔵書冊数の増加により書架や書庫のスペースが不足するとともに、施設全体のバリアフリー化も課題である。

(2) 建築候補地の選定

多くの社会教育施設が集積している自然豊かな駒場公園内での継続運営が望ましいが、現地建替える場合は、図書館が長期休館となり利用者へ影響が出るとともに、蔵書資料の保管場所等の配慮が必要。

(3) 施設の形態と財源確保

単費での建設の場合は、該当する補助事業が見あたらない。他の施設や機能を集約し複合施設として建築した場合は、補助事業や起債（公共施設等適正管理推進事業債）などの活用の幅が広がる。複合化も視野に入れながら検討する必要がある。